

保管上の注意

- 子どもの手の届かない場所で保管してください。
- 直射日光を避け、湿度の低い場所で保管してください。
- 未使用のお薬がある場合は医師または薬剤師に報告し、指示に従ってください。

ハルロピ®テープを 使用されている方へ



医療機関名・診療科名

緊急時連絡先

TEL

主治医名

薬局名

薬局連絡先

TEL

担当薬剤師名

- お薬の使用中に突然眠り込んだり、強い眠気が出ることがあります。お薬の使用中は、自動車の運転や機械の操作、高い所での作業などの危険を伴う作業は避けてください。
- 次のような場合は、使う前に医師または薬剤師に相談してください。
 - (1) 以前にお薬を飲んで、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出たことがある場合。
 - (2) 妊娠している、妊娠の可能性がある、または授乳中の場合。

もくじ

パーキンソン病について

パーキンソン病のしくみ	03
パーキンソン病の主な症状	04
パーキンソン病の治療	06

ハルロピ®テープについて

ハルロピ®テープの特徴	08
ハルロピ®テープの種類と大きさ	10
ハルロピ®テープの使用量	12
ハルロピ®テープの使い方	14
使用上の注意点	18

副作用について

使用時にあらわれることがある症状(主な副作用)	21
こんな症状があらわれることもあります	22
皮膚症状があらわれた場合の対策	24
皮膚症状予防のチェックポイント	25

お薬の日記

お薬の日記の使い方	26
お薬の日記 記入シート	27
あなたのお薬	31

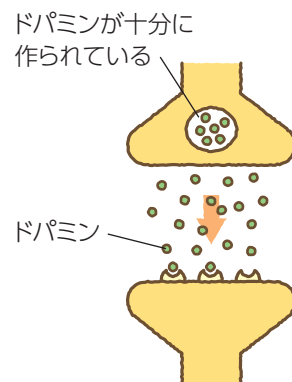
パーキンソン病について

パーキンソン病のしくみ

- パーキンソン病は、脳の黒質細胞が減少し、そこで作られるドパミンという神経伝達物質が不足する病気です。
- ドパミンは、体を動かすために必要な脳の指令を、神経細胞の間をつないで伝達する役割を果たしています。
- 脳からの指令が、神経のネットワークを通じて全身の筋肉に伝えられることで、私たちは体を動かすことができます。
- ドパミンが減少してしまうと、体を動かすための指令システムのバランスが崩れてしまい、さまざまな運動症状があらわれます。

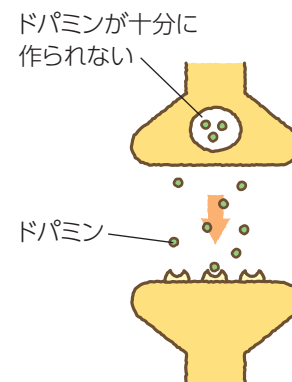
正常時

放出されたドパミンが、神経の受容体に結合して指令を伝えます。



パーキンソン病の場合の神経伝達経路

放出されるドパミンの量が減少するため、神経の受容体への指令が伝わりにくくなります。



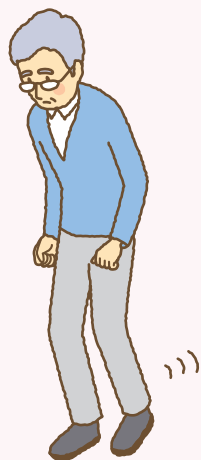
パーキンソン病の主な症状

運動症状

パーキンソン病の特徴的な症状として、下記のような運動症状があります。

① 動きが少なくなる(無動)

動きが少なくなる、動作がゆっくりになる、文字を書くと段々と小さくなっていく、声が小さく聞き取りにくくなる など



② 震え(振戦)

何もしていないときに手足が規則正しいリズムで震える、親指と人差し指、中指をすり合わせるような動きをする など

③ 筋肉のこわばり(強剛、固縮)

筋肉がこわばって手足がうまく動かせない、無理に動かそうとすると歯車のようにカクカクとする など



④ 安定した姿勢を保てない(姿勢保持障害)

バランスを取り姿勢を保つことができず転びやすくなる など

非運動症状

パーキンソン病には運動症状のほかに、便秘や不安といった精神症状、睡眠障害、認知機能障害

頻尿、起立性低血圧(立ちくらみ)といった自律神経症状、抑うつやなどさまざまな症状があります。

パーキンソン病の治療



薬物療法

パーキンソン病の治療は、薬物療法が基本とされています。不足しているドーパミンの量や働きを補う薬などが使用されます。ドーパミンの原料を脳に届ける薬や、ドーパミンが分解されるのを抑制する薬、ドーパミンと同じように神経を刺激してその働きを補う薬などです。薬の形状には、飲み薬、注射薬、皮膚に貼る薬（貼付剤）があります。

手術療法

パーキンソン病は手術では治せませんが、症状を改善したり、薬の使用量を減らしたりすることができます。運動症状と関わる脳の神経細胞の一部を壊す手術と、脳の特定の場所に電気刺激を与えて症状を抑制する手術があります。

リハビリテーション

薬物療法や手術療法と組み合わせて行います。筋力低下の防止、体のバランスや歩行速度の改善などを旨とする運動機能のリハビリのほか、腕や手指などの動きをスムーズにするリハビリ、飲み込みや発声のリハビリなどがあります。

ハルロピ®テープについて

ハルロピ®テープの特徴

皮膚に貼るお薬です

皮膚に貼ると少しずつお薬の成分が吸収されます。貼るお薬なので、飲み薬の使用が難しい人でも使用できます。

1日1回、貼りかえます

1日1回の貼りかえで効果が確認されたお薬です。1日経ったら、前日のお薬をはがしたことを確認してから新しいお薬に貼りかえてください。

使用状況を目で確認できます

患者さんやご家族が、お薬を使用したかどうかを目で見て確認できます。

お薬に貼った日付を記入することができます

いつ貼ったかを確認できるようにお薬に日付が書き込めます。

複数のお薬を組み合わせる使用することがあります

症状や年齢に合わせて、貼るお薬の用量や枚数が異なります。医師から指示された用量、枚数を守って使用してください。

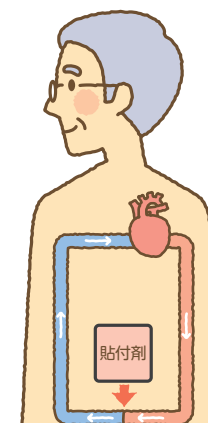


「皮膚に貼る薬」と「口から飲む薬」

皮膚に貼る



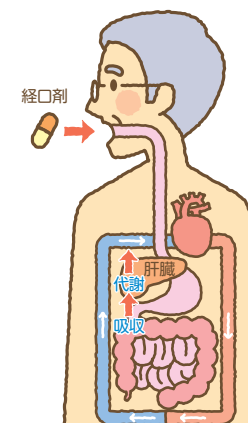
皮膚から直接血中に吸収



口から飲む

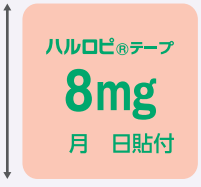


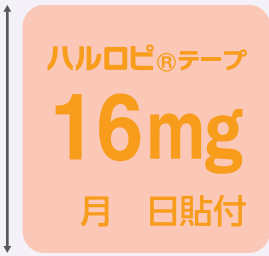


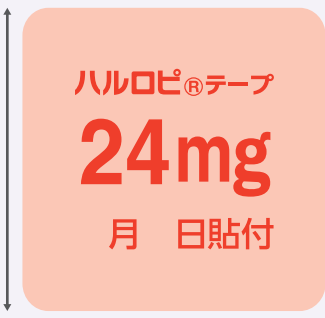




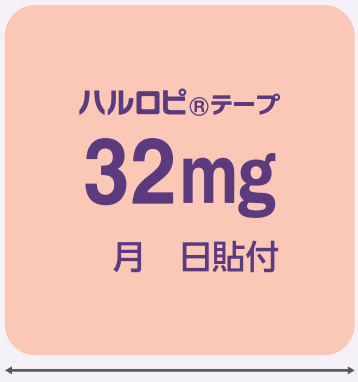




胃腸・肝臓を経由して血中に吸収



ハルロピ®テープの種類と大きさ

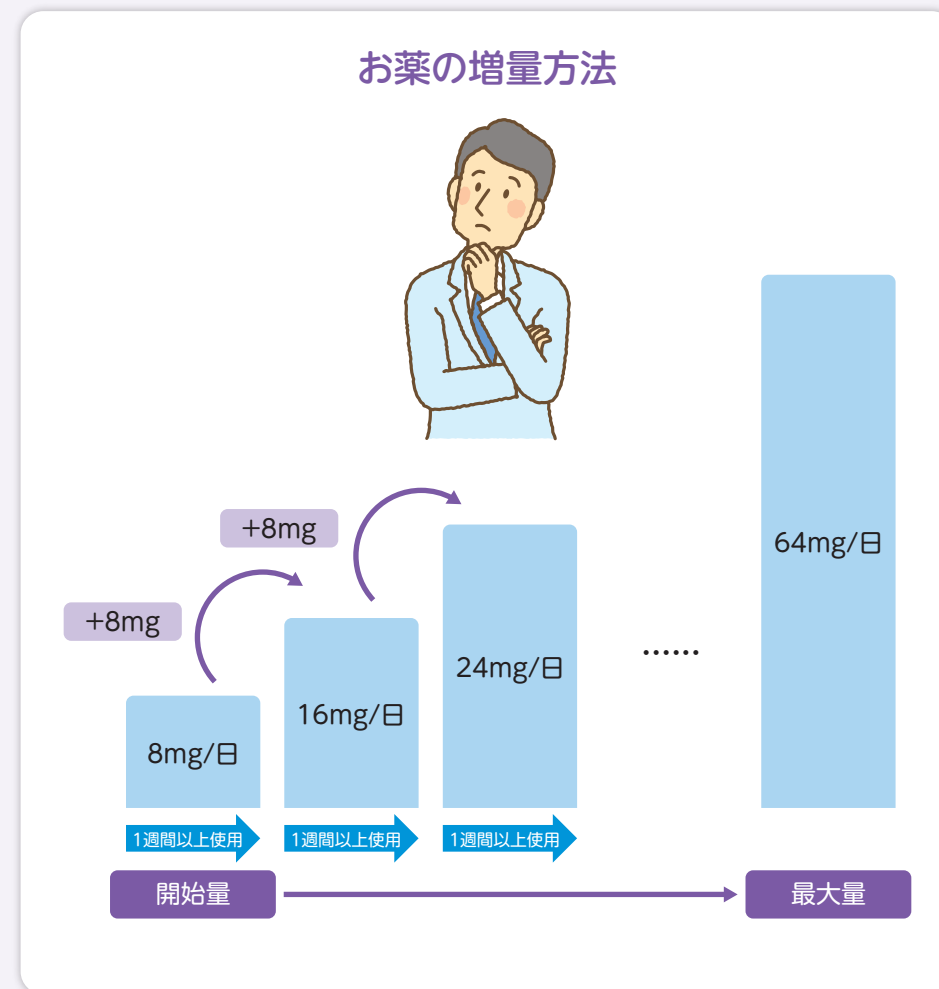
このお薬には5種類の用量があり、用量が大きくなるほどお薬のサイズも大きくなります。症状や年齢などに応じて、貼るお薬の種類や枚数は変わります。

用量	表	裏(貼付面)	包装袋
8 mg	 <p>23.2mm×23.2mm (実寸大)</p>		
16 mg	 <p>32.8mm×32.8mm (実寸大)</p>		
24 mg	 <p>40.1mm×40.1mm (実寸大)</p>		

用量	表	裏(貼付面)	包装袋
32 mg	 <p>46.3mm×46.3mm (実寸大)</p>		
40 mg	 <p>51.8mm×51.8mm (実寸大)</p>		

ハルロピ®テープの使用量

- お薬の使用量は、症状や年齢などを考慮しながら設定されます。
- 通常は1日8mgから使用を開始します。
- 必要があれば医師の指示のもと1週間以上の間隔をあけながら、1日の使用量を8mgずつ段階的に増やします。
- 医師の判断のもと、最大で1日64mgまで増量できます。

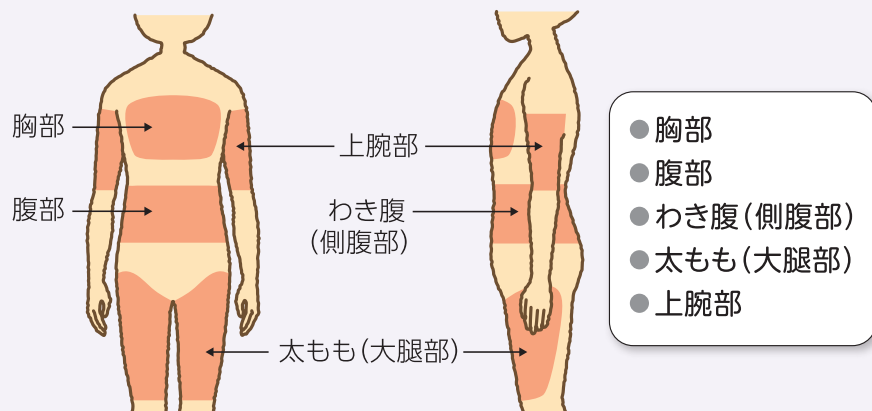


ハルロピ®テープの使い方

1 はじめに

貼る場所

このお薬は下図の■のいずれかに貼ってください。
皮膚への刺激をできるだけ減らすために、貼る場所は毎回変えてください。



貼る時間

毎日1回、同じ時間にお薬を貼ります。そのため、貼る時間をいつにするかを決めておきます。お風呂などに入るとお薬の吸収に影響する可能性があるため、貼る時間を入浴後に設定するとよいでしょう。

包装袋

このお薬は1枚ごとに包装されています。包装袋は貼る直前まで開封しないでください。

2 貼る前の準備

貼る場所をタオルなどで拭き、清潔にします

皮膚に汗や水分が残っていると、お薬の吸収に影響する可能性があります。濡れたタオルなどを使った後は、乾いたタオルなどで水分を拭き取ってください。

前回のお薬をはがします

前回のお薬にも成分が残っているため、貼ったまま新しいお薬を貼ると、効果が強くあらわれすぎたり副作用が出てしまう危険性があります。新しいお薬を貼る前に、必ず前回のお薬をはがしましょう。

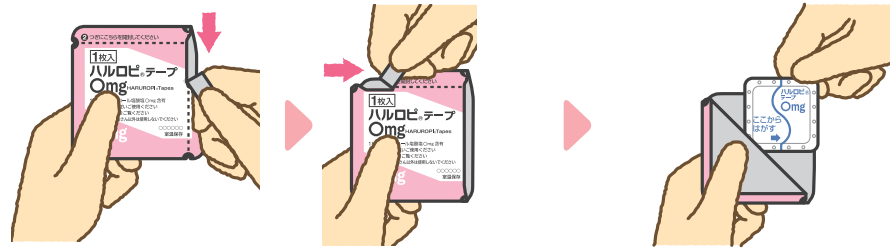
3 貼り方

1 貼る場所を清潔にする



貼る場所をよく拭いて清潔にしてください。
また、水分や汗は十分に取除いてください。

2 お薬を取り出す



開け口からミシン目にそって切り取り、
開封してください。

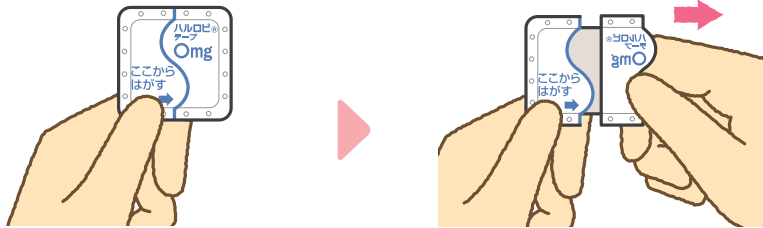
お薬を取り出してください。

3 日付の記入



お薬に貼る日付を記入してください。

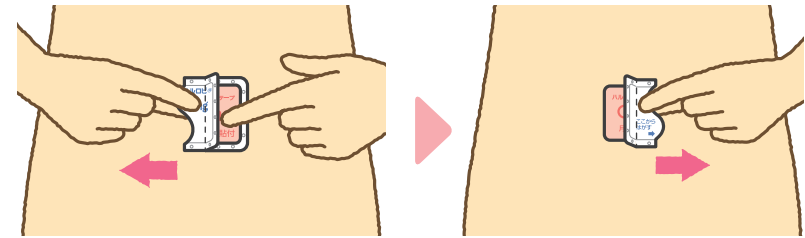
4 フィルムをはがす



「ここからはがす」と書かれた
白いフィルム面を上にしてください。

フィルム中央で折り返し、片方のフィルムを
ずらし、粘着面を少し出してください。

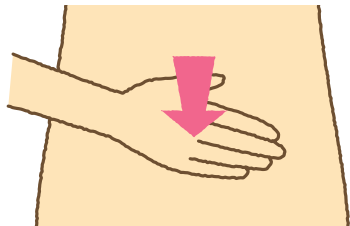
5 お薬を貼る



貼る場所に粘着面をあて、
フィルムをずらしながら貼ってください。

もう一方も折り返して、
フィルムをずらしながら貼ってください。

6 しっかり密着させる



手のひらでお薬を押さえ、しっかりと
皮膚に密着させてください。

7 手を洗う



お薬を貼った後は手を流水でよく
洗ってください。

使い終わったお薬の捨て方はP.20を参照してください。

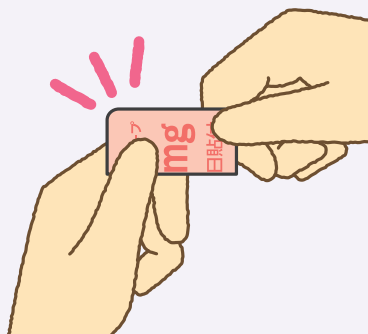
使用上の注意点

- 処方された患者さん以外は使用しないでください。このお薬を他の人に譲ってはいけません。
- 使用のお薬の組み合わせや増量・減量方法については、医師の指示に従ってください。医師の指示なしに使用量を変更・中止することは、絶対にしてはいけません。
- 赤みやかゆみ、傷などがある場所には貼らないでください。お薬が吸収される量に影響が出やすくなったり、皮膚をさらに刺激してしまう恐れがあります。
- 新しいお薬を貼る前に、必ず前回のお薬をはがしてください。複数枚貼っているときは、はがし忘れがないように枚数を数え、すべてはがしたことを確認してください。
- 皮膚の刺激をできるだけ減らすために、貼る場所は毎回変えてください。
- お風呂やシャワーの時間を考慮し、毎日1回、同じ時間に貼りかえてください。
(入浴する場合は、長時間あるいは熱い温度を避けてください。体内に吸収されるお薬の量が増え過ぎることがあります。)
- 貼り忘れに気づいても絶対に2回分を一度に貼らないでください。
- 途中でお薬がはがれてしまったときは効果が弱まる可能性があるため、新しいお薬を貼ってください。また、次の貼りかえ予定時間には新たなお薬を貼ってください。



使用上の注意点

- 使用済みのお薬には成分が残っているため、粘着面を内側にして折りたたんでください。また、子どもの手や目の届かないところに捨ててください。
- このお薬の包装袋はプラスチック製です。捨てるときは各自治体の分別ルールに従ってください。
- いつもと違う症状や、気になる症状があらわれたときには主治医や薬剤師に相談してください。
- お薬を貼った場所が、過度の直射日光、アンカ、カイロ、湯たんぽ、サウナなどで熱くならないようにしてください。



副作用について

使用時にあらわれることがある症状(主な副作用)

これまでに報告されている副作用には次のような症状があります。このほか気になる症状があれば、主治医や薬剤師に相談してください。

消化器症状

- ・悪心、嘔吐
- ・便秘 など

起立性低血圧の症状

- ・めまい、立ちくらみ
- ・ふらつき など

皮膚症状

- ・貼った場所がかゆくなる、赤くなる、かぶれる など
- 皮膚症状があらわれた場合の対策はP.24を参照してください

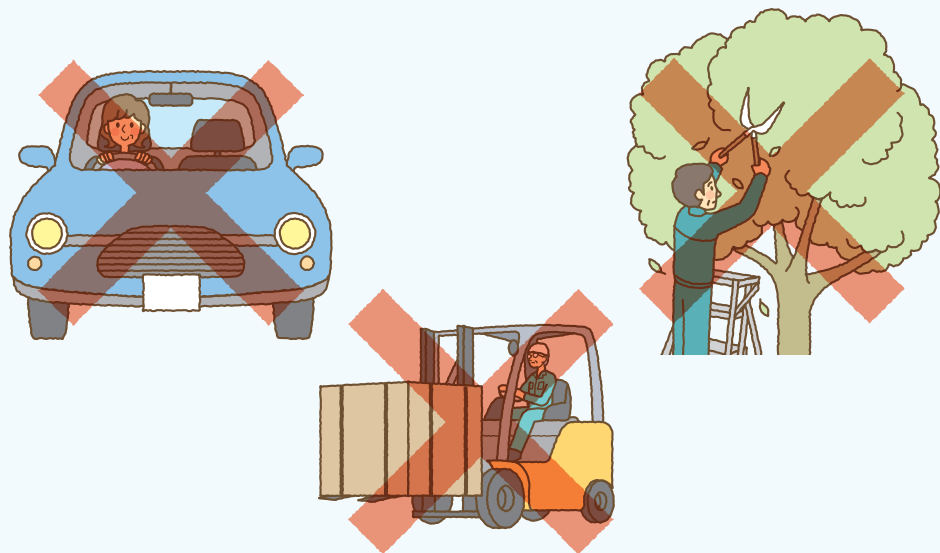
ジスキネジア症状

- ・舌を左右に動かす、口をもぐもぐさせる、勝手に手足が動いてしまう、同じ動きを繰り返す など

こんな症状があらわれることもあります

突然眠り込んだり、強い眠気が出るなどの症状

お薬の使用中に、突然眠り込んだり(突発的睡眠)、強い眠気で意識がもうろうとしたりする(極度の傾眠)症状があらわれることがあります。このような症状は、前兆がなくても、長期間使用していても、あらわれることがあります。自動車事故を起こした例も報告されているため、お薬の使用中は、自動車の運転や機械の操作、高い所での作業など、危険を伴う作業は避けてください。



幻覚や妄想、興奮、錯乱、せん妄などの精神症状

目の前にいないはずの子どもや虫などが見える、聞こえないはずの音が聞こえるなどの幻覚は、パーキンソン病の症状として出現するほか、お薬が原因であらわれることもあります。そのほか、副作用として妄想や興奮、錯乱、せん妄などがあらわれることもあります。

高熱、意識障害、手足の震えや体のこわばり、ショック症状等の悪性症候群の症状

お薬の中断や減量をきっかけにあらわれる症状です。高熱が出たり意識がなくなる、全身の筋肉がつっぱる、自分の意思とは関係なく体がくねくねと動くなどの症状があらわれます。命に関わることもある症状のため、すぐに主治医に連絡し治療を受けてください。

無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛等の薬剤離脱症候群の症状

お薬の中断や減量をきっかけにあらわれる症状です。感情表現が乏しくなり意欲が低下する、理由もないのに心配事や気がかりなことがあり、気持ちが落ち着かない、うつ、疲れるようなことはしていないのにとても疲れる、疲れが取れない、発汗及び疼痛などの症状があらわれます。

病的な衝動(ギャンブル依存、買い物依存、過食、性的衝動など)を抑えられない症状

病的にギャンブルや買い物に依存したり、欲求が抑えられず、過食や性的衝動などに走ってしまう症状があらわれることがあります。

お薬の使用中にこのような症状があらわれた場合、すぐに医師または薬剤師に相談してください。お薬の減量や休薬、使用中止や治療が必要になる場合もあります。

皮膚症状が あらわれた場合の対策

同じ場所にお薬を貼り続けていると、かゆくなる、赤くなる、かぶれるなどの症状があらわれることがあります。

ご自身の判断でお薬をはがしたり、貼っている場所にかゆみ止めのお薬を塗ったりせずに、主治医や薬剤師に相談してください。



お薬を貼る場所は毎回変えてください。

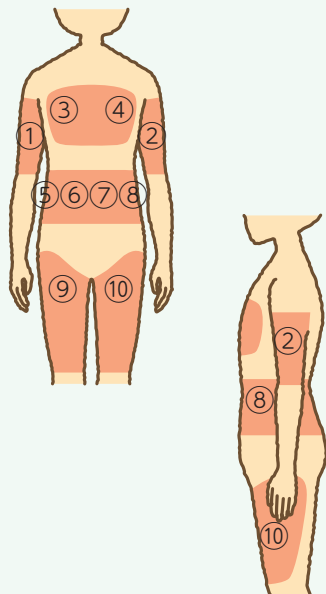
皮膚症状予防の チェックポイント

- お薬は前日とは違う場所に貼ります。
- 赤みやかゆみ、傷のある場所、皮膚表面がかさついている場所は避けます。
- お薬をはがすときは、お薬を押さえながらゆっくりとはがします。

お薬の日記の使い方

お薬を貼る場所を記録

このお薬は、胸部、腹部、わき腹（側腹部）、太もも（大腿部）、上腕部のいずれかに貼ることができます。左右合わせると、貼る場所は10カ所に区分できます。毎回、場所を変えながらお薬を貼るため、イラストのように貼る順番を決めて毎日貼っていくと、間隔をあげながらローテーションを組むことができます。そのとき、お薬カレンダーに薬を貼った場所と日付を記録しておく、便利です。

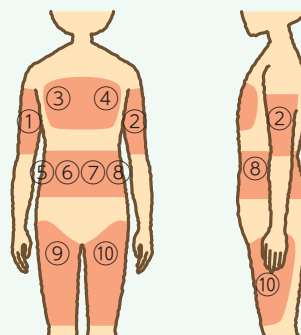


複数枚貼るときは組み合わせをメモしておきましょう

複数のお薬の種類、枚数を組み合わせて使用する場合、間違えて別のお薬を貼らないように注意が必要です。お薬カレンダーには、1日のお薬の用量と、お薬の種類、枚数を記入する欄を設けています。毎日このメモを見ることで、組み合わせが正しいかを確認できます。

日付(曜日)	前日分のお薬をはがしましたか	1日のお薬の用量	貼るお薬の組み合わせ ※複数枚貼る場合	貼った場所の番号
(記入例) 4 / 1 (月)	○	32 mg	(8)mgを(1)枚、 (24)mgを(1)枚	②

お薬の日記 記入シート



- ◎貼るお薬の用量と枚数を確認しましょう。
- ◎前日に貼ったお薬を必ずはがしてから、新しいお薬を貼りましょう。
- ◎お薬は前日とは違う場所に貼り、日記にその場所をメモしておきましょう。

日付(曜日)	前日分のお薬をはがしましたか	1日のお薬の用量	貼るお薬の組み合わせ ※複数枚貼る場合	貼った場所の番号
(記入例) 4 / 1 (月)	○	32 mg	(8)mgを(1)枚、 (24)mgを(1)枚	②
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	

日付(曜日)	前日分のお薬をはがしましたか	1日のお薬の用量	貼るお薬の組み合わせ ※複数枚貼る場合	貼った場所の番号
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	

日付(曜日)	前日分のお薬をはがしましたか	1日のお薬の用量	貼るお薬の組み合わせ ※複数枚貼る場合	貼った場所の番号
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	






あなたのお薬

※医療機関または薬局で
記入してもらいましょう。

お薬は毎日1回、同じ時間に、下記の枚数を貼ってください。

このお薬は5種類の用量があります。
サイズによって用量が異なるので、貼り間違えないようご注意ください。

日付(曜日)	前日分のお薬をはがしましたか	1日のお薬の用量	貼るお薬の組み合わせ ※複数枚貼る場合	貼った場所の番号
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	
/ ()		mg	()mgを()枚、 ()mgを()枚	

	8mg	16mg	24mg	32mg	40mg
お薬の種類					
週目 / ()~ / ()	枚	枚	枚	枚	枚
週目 / ()~ / ()	枚	枚	枚	枚	枚
週目 / ()~ / ()	枚	枚	枚	枚	枚
週目 / ()~ / ()	枚	枚	枚	枚	枚
週目 / ()~ / ()	枚	枚	枚	枚	枚

お薬を貼りかえる時間は 毎日 午前 / 午後 時